

茶ヶ床園地～中峠～貫山～偽水晶山～水晶山～偽水晶山～広谷台～
鬼の唐手山～青龍窟～滝不動～広谷湿原～中峠～茶ヶ床園地

茶ヶ床園地からの 水晶山

2021年2月21日

一週間前に平尾台の野焼きを見学した。その時から黒焦げの台地を歩いてみたいと決めていた。今回の目標は平尾台の最深部に位置する水晶山である。一度H師匠と手前の偽水晶山まで歩いたことはあるが、その時は登山道の笹が自分の背丈以上に覆い茂っていたのであえなく断念。さて今日のルートコンディションは如何に？心配しながら単独スタート。



水晶山に初登頂！ 2月だと言うのに気温は20℃。

<コース概要>

- 1、茶ヶ床園地 7時37分 ~ 2、中峠 ~ 3、貫山への分岐~ 4、鉄柵~ 5、林道出会い~
- 6、貫山 ~ 7、林道出会い~ 8、慰靈碑 ~ 9、偽水晶山 ~ 10、水晶山 ~
- 11、偽水晶山 ~ 12、広谷台 ~ 13、鬼の唐手岩 ~ 14、青龍窟 ~ 15、滝不動 ~
- 16、広谷湿原 ~ 17、急登往復 ~ 18、中峠 ~ 19、茶ヶ床園地 13時42分

本日の日の出は6時58分。自宅を出た時は真っ暗だったが、到着したときはすっかり明るくなっていた。フィールドに入るとすぐに黒焦げの台地が目に飛び込んできた。ちょっと痛々しい。

	<p>1、茶ヶ床園地 7時37分 スタート 今日は野焼き後初の平尾台。歩くのを楽しみにやって来た。早朝既にたくさんの車。</p>  <p>さあ行くぞ！</p>
	<p>トイレの横から林の中へ 7時38分 風が冷たく上着を着込んだ。</p>  <p>ひんやり</p>



一般車両通行禁止のゲートを越える 7時41分 黒い！ 大地の様相は一変している
いつもの見慣れた風景ではない。
この黒い台地が、緑輝き、山野草が咲き誇る景観に復活するのか楽しみである。

	<p>辺りをキヨロキヨロ 7時43分</p> <p>「よく焼けてるな～」と感心しながら歩く。 細いルートが野焼き後に浮かび上がる。</p>  <p style="text-align: right;">帰路で歩こう！</p>
 <p style="text-align: center;">朝日が台地を照らし、平尾台もお目覚め</p>	<p>舗装道路を進む 7時49分</p> <p>舗装道路を歩いて行くと、まず左斜面に鬼の洗濯岩が見えてくる。正面遠くには鬼の兵古干し(赤い矢印)。これは石灰岩の中に花崗岩が貫入し形成されたもので、鬼の禪(フンドシ)が干されたような光景とされている。今日のお天気ならば、フンドシもよく乾くだろう。そして少し歩いて右手後方を見上げるとライオン岩が睨みをきかせている。</p>
 <p style="text-align: center;">鬼の洗濯岩</p>	 <p style="text-align: center;">朝日を浴びる「鬼の兵古干し」</p>
 <p style="text-align: center;">野焼きで「ライオン岩」のたてがみが消滅？</p>	 <p style="text-align: center;">中峠まであと少し 7時51分</p>

	<p>周防台への分岐 7時52分 一度H師匠と歩いた道だが、記憶が曖昧になっている。近いうちに再度歩きたい。</p> <p></p> <p>天狗岩まで続く</p>
	<p>2、中峠 7時53分 484m 直進 今日の目標は水晶山なので、この舗装道路の終点まで歩く。(予定だった)</p> <p></p> <p>左は大平山</p>
	<p>急登を見上げる 7時56分 中峠を50mほど通り過ぎて左を見上げると、主稜線に乗る急登が目に入る。この稜線を右に辿ると、四方台を通過して貴山へ登頂できる。稜線上は360度眺めが抜群で、平尾台の中でも人気の高いルートである。ここを上りたい気持ちを抑え、まっすぐ舗装道路を進んだ。</p>
	<p>遠くに偽水晶山 7時58分 黒焦げの台地の中を歩いているが、上空から雲雀(ヒバリ)の囁りが聞こえてくる。自然を感じ何となく嬉しくなってくる。そして、ふと遠くに目をやると本日目標とする水晶山？ではなく、その手前にある偽水晶山(赤矢印)が見える。偽(にせ)と言う語源はここにあるのか？騙されないように！</p>

	<p>路肩注意！ 8時03分 修復してもまた崩れている。かなりえぐれて いるので、この先もきっとヤバい。 よそ見、おしゃべり注意！足下注意！</p>  <p style="text-align: right;">早期の修復を！</p>
 <p>ここを下ると湿地帯。マムシに注意！</p>	<p>広谷湿原への分岐 8時04分 「今年も8月にサギソウに会えるかな～。」と 考えながら前を通過。帰路はここ(青矢印) から出てくることになる。</p>  <p style="text-align: right;">ここから190m</p>
	<p>3、貫山への分岐 8時14分 歩くにつれ、無線中継塔が近づいてきた。その手前左に、マイナールートだが貫山への分 岐がある。ここで立ち止まり一考。このまま 水晶山を目指すのもいいが、一旦貫山の頂 上を踏んだ後に水晶山を目指してみようか と…。急遽ここで予定変更。 この分岐を左に進んで貫山へ！</p>
	<p>分岐から山腹をトラバース 8時15分 茶ヶ床園地からここまで舗装道路一本。早く 山道を歩きたいという気持ちで、つい気ま ぐれで予定変更となってしまった。 ここで初めて黒焦げの台地に足を踏み入 た。このルートは昨年8月に一度歩いたこと はあるが、夏場は雑草が覆い茂って道は判 り辛かった。</p>



トラバース道は斜面が崩落していて危険



水が流れる…これが帰り水か？



4、鉄柵を越える 8時25分

車両通行止め対策。乗り入れたら罰則有。
今時バイクなど入ってくるのだろうか？



考えは甘かった



鉄柵を越えると分岐 8時26分 右へ

前回は道がよく判らなくて左に進んだが、着いた先は四方台の近くだった。その苦い経験から下山後ルートを下調べしていた。
貫山直下の「林道出会い分岐」に通じる道は、ここを右に進むべきだった。反省。
基本を忘れていい加減な山歩きをしていると道迷いの原因になる。気をつけよう！



道は広い空間を右カーブしている。防火帯を横切り、藪の中に入つて行く。 8時29分



両サイド笹が覆い茂つてゐるが、踏み後はしっかりしているので大丈夫！ 8時30分

 <p>ここを左に進むと貫山直下の林道出会い</p>	<p>十字分岐 8時33分 藪をかき分けて歩いて行くと、十字路に出た。貫山は左へ、右は水晶山方面。まっすぐ進む道もあるが…どこに通じているのか？右手にある古びた看板等が目印になる。</p>  <p>古びた看板</p>
	<p>5、林道出会い 8時40分 右へ 十字分岐から7分も歩くと林道出会いに飛び出した。夏場はこの道も草で隠れている。帰路はまたこの道を利用。(青矢印) 貫山はここを右に上る。急登が待っている。ここから左(緑矢印)に進むと四方台。左斜めに進んでも右(赤矢印)へ曲がって森へ入ると、林道塔ヶ峰線に通じている。</p>
 <p>四方台方面(緑矢印) 林道方面(赤矢印)</p>	 <p>貫山山頂を目指す！ 8時41分</p>
 <p>防火帯になった登山道を進む 8時52分</p>	 <p>振り返ると、四方台越しに周防台</p>

	<p>母原林道への分岐 8時56分 山頂碑が見えてきた。道が平坦になってホツとする。左に進むと母原林道と表記されているが、この道は歩いたことはない。</p>
	<p>6. 貫山 711m 8時58分 近くの岩にカメラを置き、セルフタイマーで自撮り。山頂は風が強くて寒くなってきた。</p>
	<p>国見岩(赤矢印の付近) 山頂碑を通り過ぎて20m程進むと、左側に踏み分け道があったので、覗いてみると大きな岩。国見岩という名前が付いていた。</p>
	<p>貫山を下山 9時18分 下界は白く霞んで見え難い。北九州空港がかすかに確認出来る状態だった。 時間も早いのか、山頂には4人の登山者だけだった。簡易地図で貫山山頂付近を見てみると「鳥居」の表記がある。すぐ近くかなと思って探したがわからなかった。次のお楽しみにして、下山を決めた。</p>

	<p>7、林道出会い 9時29分 山頂から11分で下ってきた。先ほど飛び出てきた道に戻って進む。保安林看板が目印。</p>  <p style="text-align: right;">左へ</p>
	<p>十字分岐 9時35分 往路右から出てきた十字分岐に戻ってきた。古びた看板を確認してまっすぐ進む。</p>  <p style="text-align: right;">古びた看板</p>
	<p>ヤシャブシロードと命名 9時36分 両サイドにヤシャブシの木が並ぶ。夏は葉が茂って日陰になるぞ！</p>  <p style="text-align: right;">茶色の実</p>
	<p>赤土？が広がる場所 9時38分 少し歩くとブロックで囲んだ塀？古い建物の基礎？が残っている。これは何の跡？</p>  <p style="text-align: right;">歴史を感じる</p>

	
踏み跡を辿りながら鉄塔方面へ	鉄塔へ向かうが、坂は急でズルズル滑る。
	
道は鉄塔の左側へまっすぐ伸びている	この辺りから野焼きはされていない
	
右手に鉄塔を見ながら歩く 9時48分	分岐に出会う 9時50分 左へ行くと
	8、林野火災殉職者 慰靈碑 9時50分 慰靈碑の裏面に 昭和52年3月26日発生した貫山林野火災 にあたり、この地より北北西1キロメートル の地点において火災防御に従事し殉職した 消防職員の御靈のめい福を祈る 昭和52年9月23日建立 北九州市 と記してあった。

殉職された5人の消防士のニュースは、45年前の当時大きく報じられ私も記憶している。

慰靈碑にお参りして先へ進んだが、二つあったはずの鉄塔が1つしかないのに気が付いた。

	<p>分岐に出会う 9時54分 左へ 道標には水晶山方面を示す文字。気合を入れ直して本日の目標の水晶山を目指す！</p>  <p>まだ元気</p>
	<p>藪の中の細い道を歩く 9時57分 冬季なので、多少藪漕ぎしても大したことはないが、これが夏場だと難儀するだろう。</p>  <p>白い目印もある</p>
	<p>分岐に出会う 9時59分 右へ さあどっちだ？よく見ると赤テープが右の道に沿って付けてある。 これを見て迷わす右へ！</p>  <p>安心して進む</p>
	 <p>偽水晶山が目前に迫る 10時03分</p> <p>振り返れば貫山 10時06分</p>



山頂碑が見えた！ 10時08分

「やったー、あと少しだー」

どの山を登っても、山頂直前のこの瞬間が嬉しくて、ワクワクして、疲れが吹っ飛び、何故か元気が出てきて速足となる。

今日はお天気よくて最高。でも気温は 20°C で2月とは思えない。花粉はたくさん飛んでいてちょっと辛い。



9、偽水晶山 10時09分 566m

本日 2 座目に登頂！しばし眺めを堪能し、ここから未踏の水晶山を目指す！



水分補給



平尾台の雄大な景観を独り占め 10時10分 鉄塔の右方面からここまでやってきた

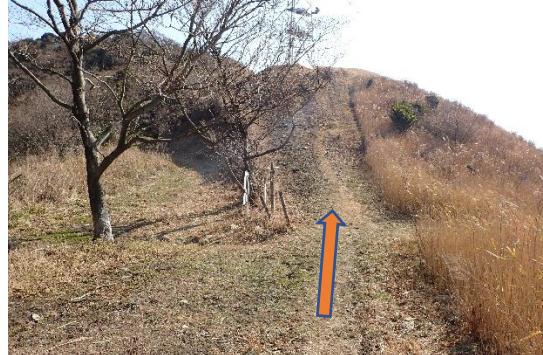


偽水晶山から水晶山を遠望 10時09分 水晶山まで頑張るぞー(正面左)

以前は草が覆い茂って進むことが出来なかった！今回こそは！

	<p>一つ目の送電線鉄塔を通過 10時18分 綺麗に草刈りがされている。鉄塔の右側を注意して進む。目的の水晶山は鉄塔と重なって見えている。</p>
	<p>送電線鉄塔からの眺め 10時19分 下を覗くとここは送電線に沿っての防火帯になっていた。</p>

ここから一旦グーンと下って二つ目の鉄塔を目指す



鞍部に下ったら分岐。右へ！ 10時22分



バイク乗り入れ禁止の看板



二つ目の送電線鉄塔を通過 10時23分
分岐からの坂を上れば目の前に鉄塔が現れる。この鉄塔の下を潜って進む。



快調、快調



鉄塔を過ぎ、やせ尾根を歩いて行くと



分岐の道標が目に入る 10時26分



水晶山への分岐 10時27分
ここから左に下って行くと水晶山だが、右を見ると、何となく道の先が気になった。



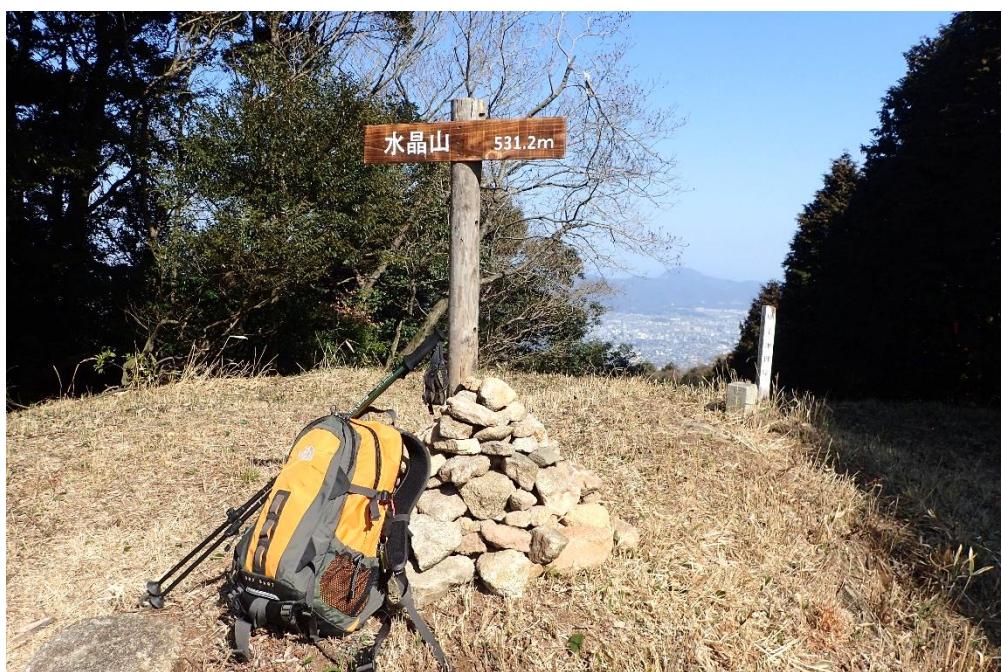
行ってみよう！

	<p>展望岩 10時27分 532m 霞んで残念だが、空気が澄んでいたら苅田町方面がよく見渡せるだろう。</p>  <p>山名はない</p>
	 <p>等覚寺方面のルートを眺める</p>
	 <p>少し下るとまた分岐 10時32分 直進</p>
	<p>平坦な道 10時33分 山頂はもうすぐだ。それにしても、こんなに楽な山頂へのアプローチも珍しい。</p>  <p>あと少し</p>



山頂手前の消防用貯水そう

10、水晶山 10時36分 531m



ニューピークでちょっと嬉しい。ザックを置いて記念撮影。



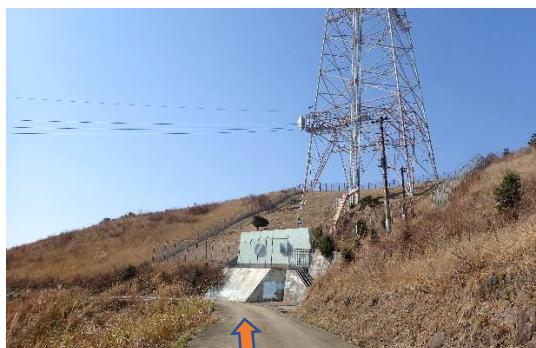
展望は一方向のみ。小倉南方面の街並み。



三角点(国土地理院)

山頂で羊羹を食べて小休憩。しっかり糖分と水分を補給し、往路を戻る。 10時44分

	<p>バイク禁止の看板を見ていたら 10時49分 遠くからエンジン音が聞こえてくる。まさか？バイクが上がってきたのか？</p>  <p>嫌な予感</p>
	<p>水晶山への分岐 10時51分 この坂を上る最中にエンジン音は大きく聞こえるようになったが、また徐々に小さくなって聞こえなくなった。 本当にバイクだったのか？ 分岐まで上り、辺りを見回したが、何も見つけることはできなかった。</p>
	 <p>くっきり着いたバイクのタイヤ痕を発見！</p>
<p>二つ目の送電線鉄塔目前で… 11時00分</p>	<p>やっぱりあのエンジン音はバイクだった！平尾台にはバイク進入禁止の看板がたくさん立ててあるが、残念なことにバイクで走り回る人が横行しているのだろう。 パトロール強化を！</p>
<p>偽水晶山と右後方の貫山11時09分</p> 	<p>11、偽水晶山 11時14分 566m</p> 

	
<p>看板が倒れている分岐を通過 11時24分 (往路の際、赤テープに従って歩いたところ)</p>	<p>往路は右(青矢印)から下ってきたが、復路 は左(オレンジの矢印)へ上る 11時25分</p>
	<p>更地になっている 11時26分 以前右側に無線中継所があったのだが、い つ取り壊されたのだろう?知らなかつた。</p> <p></p> <p>舗装道路へ</p>
	<p>舗装道路終点(風景が変わっている) 以前この辺りから階段を上ったはず。探 すと、白い看板地点に階段があった。階段を 上ると、道標(9時54分)に辿り着く。</p> <p></p> <p>上らずに引き返す</p>
	<p>平尾台無線中継所 11時31分 通過 舗装道路を歩くと、鉄塔の下に無線中継所 のプレートが表示してあった。二つあった中 継所を集約したのだろう?</p> <p></p> <p>プレート確認</p>



舗装道路を進んで行くと左に広谷台(赤矢印)への道が見えてきた 11時38分

この一帯も野焼きは行われていない

気持ちよさそうな広谷台の風景を見て、広谷台経由で青龍窟に行ってみることにした。

	<p>広谷台への分岐はここから 11時40分 分岐表示がないので非常にわかり難いが、 広谷台からの道筋を手前に辿りながら左側 を注意して進むと、舗装道路の下に道が現 れる。一段降りて登山道へ入ることとなる。 舗装道路の正面を見ると、少し先に往路、舗 装道路から貫山へ向かった分岐(青矢印) が見える。あれから3時間半が経過している。</p>
<p>舗装道路から一段降りて登山道へ</p>	<p>往路歩いた(8時14分)、貫山へのルート</p>



のんびり歩く 11時43分

道中、カサカサに枯れたハバヤマボクチが風に揺れる。遠くに偽水晶山が見える。



冬の景観



ネザサがキラキラ光ってとても綺麗な広谷台 11時47分 気持ちいい～



12、広谷台 11時53分 510m

山頂碑付近では家族がお弁当タイムだった。これを見て自分も空腹感が増大！



ハイキング日和



黒焦げになった尾根と貫山(右)



石灰岩の間を縫って歩く 11時54分

青龍窟に行く前にちょっと寄り道

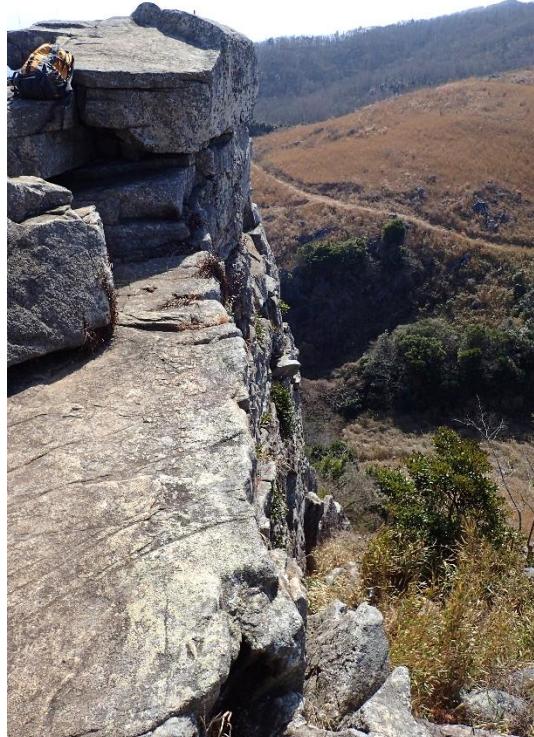


左に下ると青龍窟だが、分岐を直進。

13、鬼の唐手岩 11時59分 この先は崖



正面奥は周防台～桶ヶ辻の稜線



鬼の唐手岩でお弁当 12時07分
高度感を味わいながらシャッターを切る。
崖下は奈落の底で危険極まりない。



強風なので岩陰に隠れてお弁当タイム



満足、満足！

	<p>青龍窟へ 12時18分 先程の分岐に戻り、右下へ下って行く。</p> 
	<p>青龍窟への分岐 12時23分 左へ</p> 
 <p>さすがにこれを読むと山側の道は諦めるしかない。万一のことがあると大変だ！</p>	<p>道標の上に注意看板が… 12時25分 スズメバチ注意！ 威嚇行動や攻撃をしてきますので、広谷湿原↔青龍窟・広谷台・鬼の唐手岩に行く時には滝不動ルートを使用して下さい。 巣以外でもスズメバチが活発に活動中です。動向に注意して下さい。 ★散策路真横でスズメバチ営巣中 ★刺傷事故発生 ★山側のルート危険大 平尾台自然観察センター(注意看板より)</p>
	<p>青龍窟方面へ向かう 12時25分 なだらかな坂道を下って行く。</p> 



14、青龍窟 12時29分

洞窟の入り口に近づくと人の声が聞こえてきた。装束を身に着けた修験者だった。



清掃中



青龍窟内を覗くと大勢の修験者が清掃中だった。近い内に行事があるのだろうか？

少し見学していたが、中に入ることも出来ずここを後にして往路を戻った。

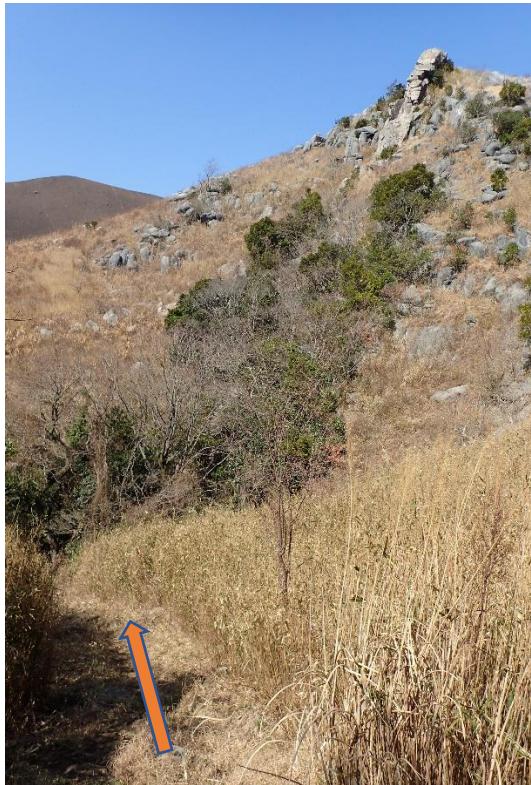


青龍窟への分岐に戻ってきた 12時39分

スズメバチの注意看板の通り、滝不動のルートで広谷湿原に進むことにした。



滝不動へ下る



こんもりとした森の中に降りていく

15、滝不動 12時44分

滝不動の位置は鬼の唐手岩のほぼ真下になる。標高差は約70m。道は吸い込まれるようにどんどんドリーネの下へ伸びている。下るにつれ水の流れる音が大きく響くようになってきた。何故かドキドキする。この時、滝不動から上って来た若いカップルとすれ違ったが、なんと赤ちゃんを背負っていた。



修験者の滝行が行われたと言われる、大小二筋の滝。滝の落差は約3m。



滝不動を通り過ぎて見上げると… 12時48分 岩の上で誰かこちらを覗いていた



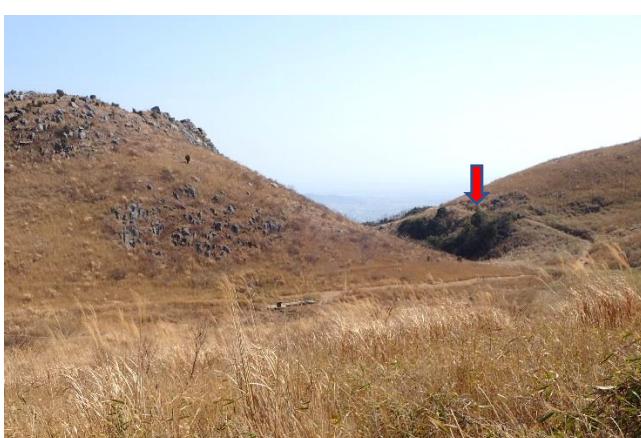
16、広谷湿原 12時54分 野焼き後の山並みと湿原のコントラストがなんとも言えない



広谷湿原への分岐 12時58分 左へ
今朝(8時04分)、通過した舗装道路まで戻ってきた。あとはまっすぐ茶ヶ床園地へ！



楽勝一本道



広谷湿原を左に見ながら歩く

スズメバチの危ない場所(赤矢印)を確認。早く駆除を御願いしたいデス！



防火帯に沿って周防台へ上る分岐を通過。
一度下ってきたことがある。 13時04分



右上にある主稜線に上る急登を通過
の、つもりだったが… 13時07分

ここでまた気まぐれな気持ちが沸き起こり、この急登を上ることにした。

この尾根の反対側には岩山がある。その野焼き状態を見てみたくなった。



17、急登往復 13時19分 急登を上り切って見下ろすと、正面にどっしりした周防台
この急斜面には2本の急登ルートがあるが、今回は左側のルート(赤矢印)から上ってきた。
下りは、背面にある岩山方面のなだらかなルート(次頁の緑矢印)で中峠まで辿ることも出来
るが、あえてこの右側のルート(青矢印)で下ることにした。
そして、気まぐれで決めたが、お目当ての岩山を見るために回れ右。



野焼きでスッキリ、丸裸になった岩山を眺める 13時20分 正に岩で出来ている岩山だ！
岩山を眺めたらまた回れ右！



右側のルート(青矢印)で下る 13時22分 右下に見えるのは中峠の分岐
先行者二人の後を追いながら下って行くが、どんどん離される④



急登を下って舗装道路へ 13時27分 右へ



下ってきた急登を振り返る 13時28分

この急登を往復してさすがに足はガクガク



17、中峠を通過 13時29分



周防台への分岐を通過 13時30分



野焼き後の羊群原 13時34分 黒い台地に無数の白い羊たち



支線に入り茶ヶ床園地へ 13時35分
この道は朝(7時43分)、ここを通過した際に確認した道である。このまま舗装道路を下ってもよいが、野焼き後にクッキリ現れたこの未踏の道を歩いてみたかった。これまであまり気にしたことがない道だが、これほど道筋が見えるとなるとそうはいかない。さあどんな道だろう？



正面に茶ヶ床園地を見ながら石灰岩の中を歩く 13時36分 地表に太い鉄管
踏み跡はハッキリしている。こんなに良い道があるとは恥ずかしながら知らなかった。



農道に出会い左へ 13時40分



18、茶ヶ床園地 13時42分 ゴール

今日はかなり歩いた。未踏の水晶山にも無事に登頂出来て感無量。

約6時間、スマホの歩数計を見ると24148歩だった。お疲れ様でした。